

散在地域でいかに持続可能な日本語支援を実現するか

—関係機関との連携を模索した松本市子ども日本語教育センターの14年間の挑戦—

松本市子ども日本語教育センター

栗林恭子 西尾淳

今日 お話すること

1. 松本市子ども日本語教育センターについて
 - 1.1 設立の経緯
 - 1.2 実践の場の特徴
2. 実践の目標と課題
3. 3.1 体制の構築 3.2 実践例
4. 考察と今後の課題

1. 松本市子ども日本語教育センターについて

1.1 設立の経緯

外国ルーツの児童生徒の増加に伴い

2009年 「日本語を母語としない児童生徒支援事業」スタート

国の補助金を活用し「松本市子ども日本語支援センター」を設置

→ **松本市立の小学校空き教室に（学校との連携のポイント）**

2012年 市費対応に。NPO法人中信多文化共生ネットワーク（CTN）に事業委託

2016年 事業目的の明確化を図り「松本市子ども日本語教育センター」に改称
支援員は“市雇用”に。

→基本理念

「日本語が不自由であるがゆえに学習に参加できないことがないようにしたい！」

1. 松本市子ども日本語教育センターについて

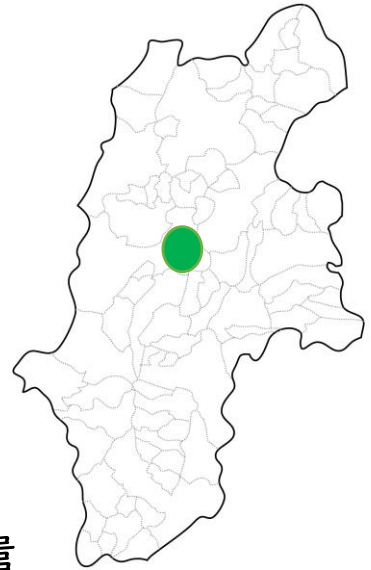
1.2 実践の場の特徴

松本市…人口24万人余り 外国籍住民は約4,000人(人口の約1.7%)

→外国人散在地域

日本語指導教員のいる学校 … 1校のみ

ほかは、センターによる支援(支援依頼のあった学校に「日本語教育支援員※」を派遣



センターの日本語を受けている児童生徒数



小学校 14校 34人



中学校 8校 13人

※ 日本語教育支援員…教免所持もしくは、現行の日本語教師要件を満たす者
かつ、センターの研修を受けた者

2. 実践の目標と課題

散在・集住に関わらず、子どもたちが直面する困難さは変わらない!

しかし、散在地域は日本語教育の専従教員が少ない → 担い手は“外部支援者”

★ “外部支援者”としての課題 ★

- ・学校と連携が取りにくい。
- ・教科学習に深く踏み込めない。
- ・人材の質の担保が難しい。

3. 課題改善のための実践

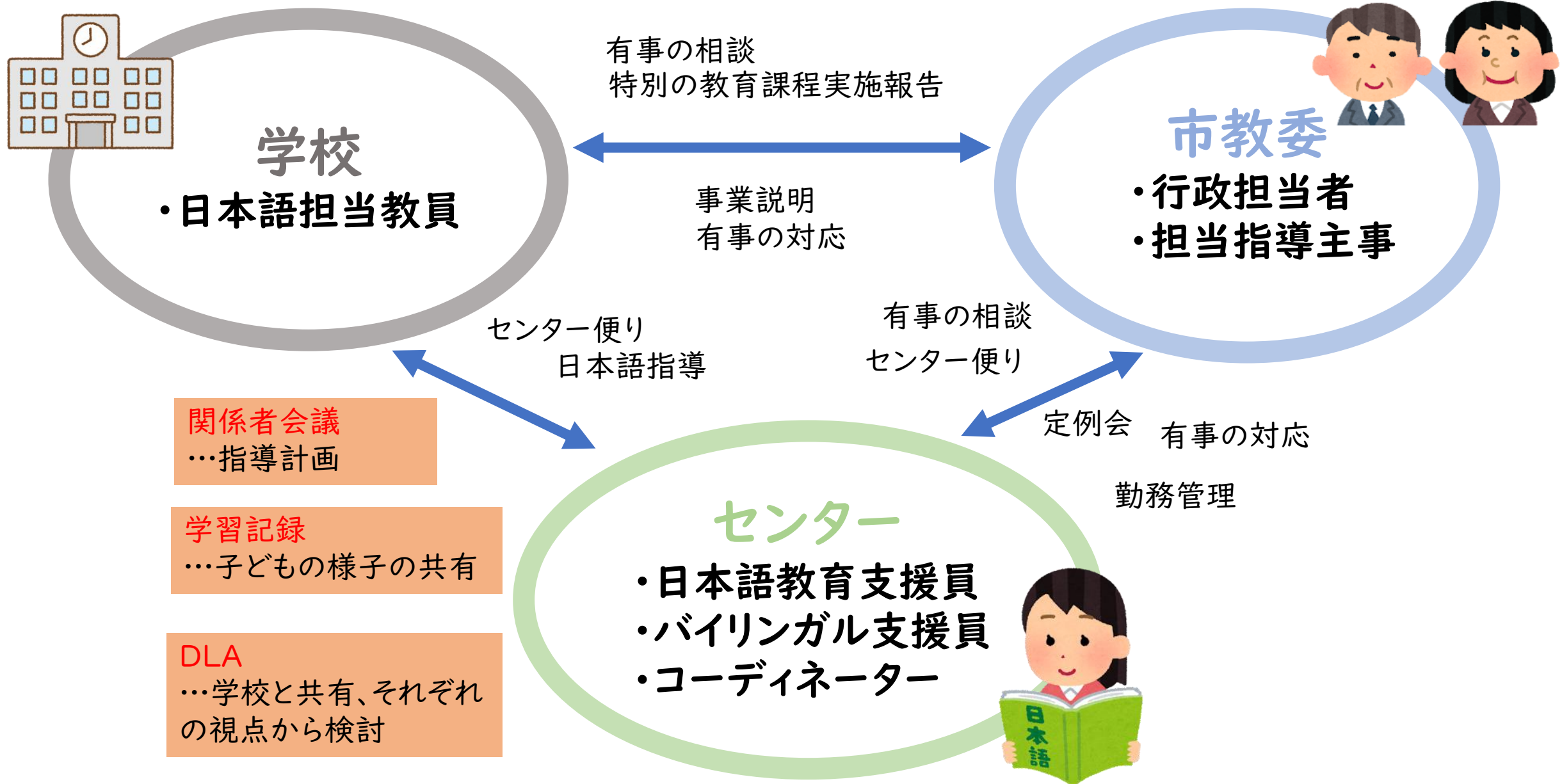
3.1 体制の構築

★ 外部支援者に“丸投げ”にならないために ★

担当者の配置

業務・職務分掌の明確化

担当者の配置および業務・職務分掌の明確化



学習目標:
 ・わかることは増やす
 ・拍を正しくとらえ. 文字にあわせて

学習項目:
 長音

学習活動	指導内容	教材・教具	児童・生徒の様子
Warming up	あひまつ. 日付. 天気 マグネットづくり しゅーるび 名前を書く → 教室のどこに貼るかを 確認する。		昼休みの音が「あひまつはいい可!!」と 元気に入ってきました。 の次序について教えて くれました。 と同じものを作りました ご活用ください!
ひらがな の 拍	長音 ① 音の書き分け ex) あひま - あひまん す - すん ② 拍をかきえる。 ③ 長音のことばをかき ④ もり一度決む	① P53.54	→ ウッドブロック (T) を たたきながら. 拍を突然し. 拍を分けられしゅーるびをした → OK!! そこがクリアできたので. 音を聞いて ことばをかきしゅーるび 「あひま」→「あひまん」 「すん」→「すん」など なしてしまいましたが. ルールを 体感しながら. 少しずつ修正が できました。

申し送り事項
 体を動かして. 耳で聴いて 目で見え. 五感をフル活用しながら. 長音を
 体得しました. またまた練習は必要ですが. ルールを覚えてしまえば.
 正確に読んだり書いたりできるよ! になると思います. これから楽しんで!!

学校記入欄
 楽しそうなおね. どんなふうにはやっているのか. 見てみたい!!
 長音の表記が 正しくできれば. 作文も格段に読んでも書ける!!

実践例1:小4、フィリピンルーツ、来日、ゼロスタート(初期段階から教科学習へつなげた試み)



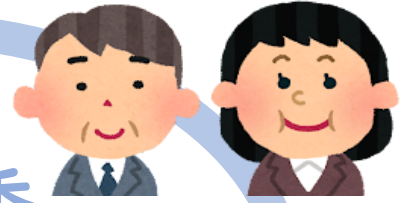
学校
・日本語担当教員

アプリの使用について相談・検討
展開についても検討

母語の力を活かしながら、ICTツールを活用。

日本語教室だけでなく、原学級でも教科学習に取り組んでいる。

小学校高学年～中学生に翻訳ツールアプリを試験的に導入開始。



市教委

・行政担当者
・担当指導主事

翻訳ツールの使い方について
聞き取り・検討

**担任教員と支援員の子ども
に対する見立ての共有**

日本語の力、母語の力
母国での学習状況



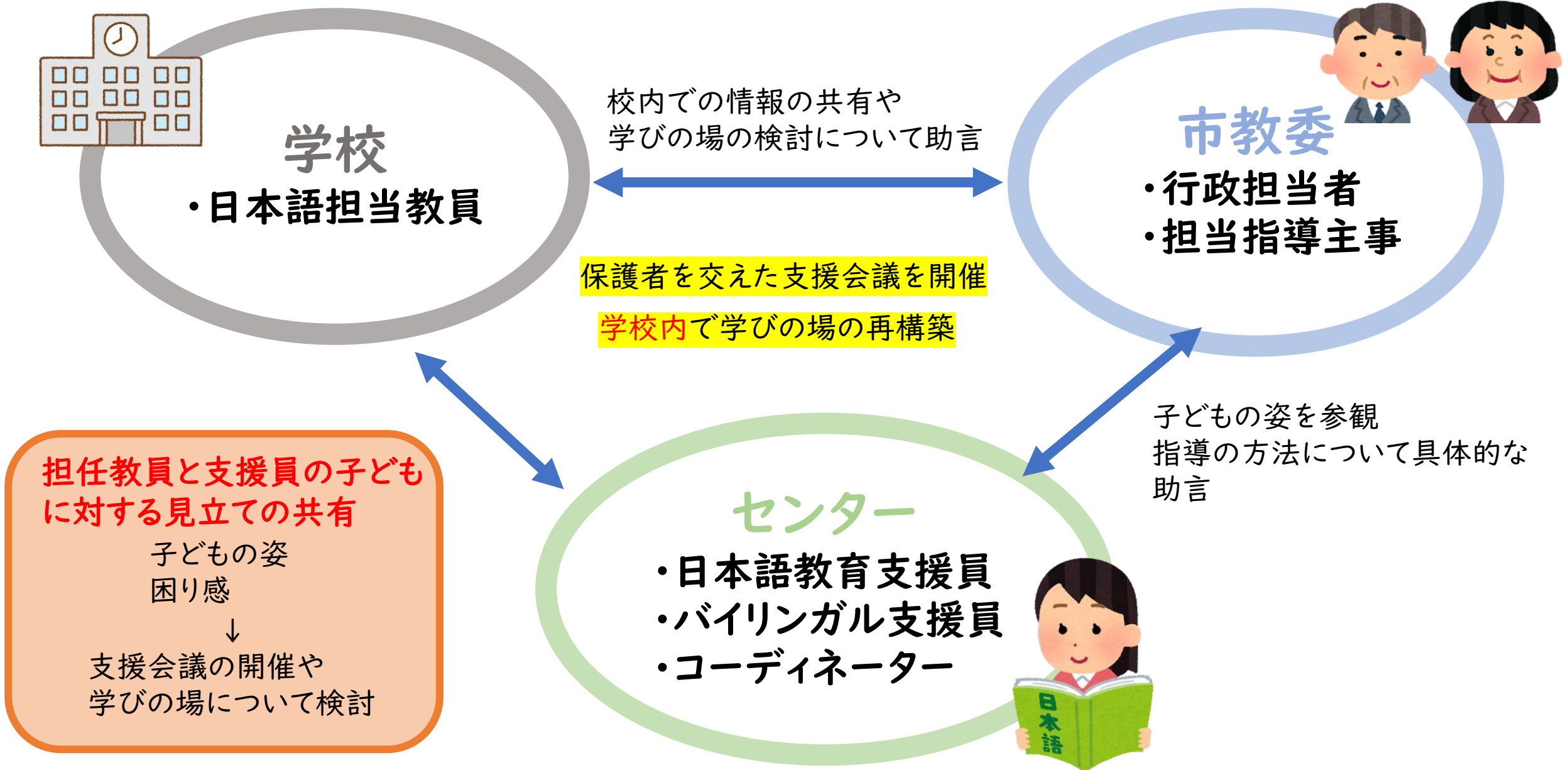
翻訳ツールの使い方
について検討

センター

・日本語教育支援員
・バイリンガル支援員
・コーディネーター



実践例2:小5、フィリピンルーツ、日本生育(学習の遅れの一因が日本語である可能性があり支援開始)



14年間意識し実践してきたこと

1. 発信

子どもの姿を発信する…センター便り、学習記録、CTNニュースレター
研修講師

「長野県教育指導時報」「長野の子ども白書」



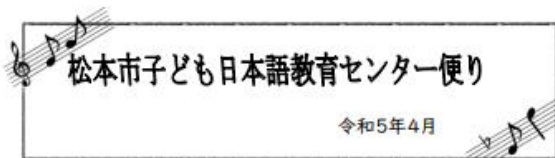
Point ~伝え方~

一方的にならないように…

事実を具体的に

お願いしたいこと・こちらができることを具体的に





例年より一足早い桜の開花。満開の桜は、入学式に彩を添えてくれました。
今年度も、松本市子ども日本語教育センターをどうぞよろしくお願い致します。

日本語を母語としない児童生徒支援事業 事業説明会開催のお知らせ

松本市教育委員会では、事業開始にあたり、説明方法を開催します。
今年度は事業説明に加え、松本市多文化共生プラザの職員が、外国人保護者への対応や理解等についてお話をする予定です。
新年度に入り、海外からの転入といった情報が少しずつ聞こえ始めています。コロナが収束し、全世界的に人々の移動が活発になったことで、今後は今まで以上に外国由来の子どもの来日が予想されます。子どもたちは“ある日突然”やってきます。その時に、スムーズに受け入れができるよう、ぜひ説明会にご参加ください。

日時：4月21日(金) 午前10時～
場所：勤労者福祉センター(松本市中央4-7-26)
対象：松本市内の小中学校

※ 市教委から4.3付で開催通知が出ています。詳細はそちらをご覧ください。

次世代へつなげるバトン ～支援を受けていた生徒が、“支援する”人材に～



学習者の個性は、個性入りを生む。南アジア出身の女の子に勉強を教えています。この写真は、春休みにMウィングで行われた外国由来の子どもの勉強会(多文化共生プラザ主催)の一コマです。
Sくんは6年前に、中国から松本の中学校に転入してきました。当時は日本語が殆どわからず、子ども日本語教育センターによる日本語支援も最初級からのスタートでした。慣れない学校生活に戸惑いながらも、Sくんは必死に

勉強を頑張りました。日本語の基礎となる力を丁寧に習得すると、そこから加速度的に教科の力をつけ、高校入試を突破。充実の3年間を過ごし、昨年春、一般入試で大学に合格しました。

「自分の経験を同じ境遇の子どもたちに還元したい」というSくんは、帰省したこの春休みに学習会に参加してくれました。勉強を教えるだけでなく、同じルーツを持つ小中学生と中国語で会話を楽しむ姿もありました。彼らにとってSくんは「頑張ればこうなれるんだ!」といういいロールモデルになったに違いありません。「将来は子どもの日本語支援に携わりたい」とSくんは夢を語ります。センター開設13年が経とうしていますが、また種が育ち花開いてくれたことに、私たちは嬉しさを感じると同時に身が引き締まる思いです。

外国由来の子どもたちの転入に際して… 学校でできること

学校層が異なる国からの来日、学校での都合などがある理由で、外国由来の子どもたちは“ある日突然”転入してくることが多いです。学校ではまず、どんな対応をしたらいいのでしょうか。

★急に転入の知らせが入った。受け入れる際に、どのような準備が必要?

- ① どこからどんな理由で来たのか知っておく。
- ② 転入する前の教育歴、学校での様子を知る。
- ③ 児童生徒の家庭状況を把握する。
- ④ 子どもの日本語能力を早めに知っておく。



- 日本語力判断チャート(※事業説明会配布予定資料)をご活用ください。
- ⑤ 保護者の最初の来校時には通訳を確保する。
→ 保護者が知りたいこと、学校側が伝えたいことを正確に伝えるためにも、保護者の不安を和らげるためにも、通訳の確保をお勧めします。通訳依頼は、市教育委員会学校支援室までお送りください。
- ⑥ 学校での支援体制を考える。
→ 日本語支援の時間は学校生活のほんの一部。大半の時間は原学級で過ごすことになります。個別に教科の支援をするなど学校職員が関わることが理想ですが、難しい場合は、その子のことを全職員が知っていて声をかけるだけでも違います。“受け入れてもらっている”と子どもが感じられるような雰囲気作りが大切です。
- ⑦ 困ったときに相談できる関係者の連絡先を知っておく。
→ 子ども日本語教育センターはもちろん、松本市多文化共生プラザ(Mウィング3F, 電話 39-1106)など。プラザには、一般的な生活相談のほか、在留資格など法的なことに関する専門の相談員もいます。
- ⑧ 子どもの母国の文化を知っておく。
→ 例えばブラジルでは、小さい女の子でもピアス、指輪、化粧などをします。また、部活動の先輩、後輩の上下関係や整然とした団体行動などは、特に非儒教圏の人々にはなじみがありません。学校で子どもが清掃をする習慣がない国もあります。何かトラブルがあった時、その原因は文化の違いにあることが多いものです。外国由来の子どもとの出会いは、国際社会で生きていかなければならない日本人の子どもたちにとっても、異文化・異言語を学ぶ貴重な機会になるはずで。

★日本語ができない子どもをどのように授業に参加させていけばいい?

基本的な注意点としては、①やさしい言葉への言い換えを行う。②なるべく視覚的な情報を入れながら説明を工夫する。③一文は短く。④説明の過程で理解の確認をしながら進める。⑤繰り返しや抑揚をつけたりしてポイントを明確にした話し方をこころがける。などがあげられます。日本語力が十分でない子どもを意識した話し方や教え方は、日本人の子どもにとっても分かりやすい授業になると言われています。

高学年以上で母語が確立している子どもは、タブレットの翻訳機能の活用も有効でしょう。

参考文献『日本語が難せないお友だちを迎えて～国際化する教育現場からのQ&A～』くろしお出版

14年間意識し実践してきたこと

2. 理解

学校のことを知ろうとする…校内で話が通る道筋、担任の裁量、管理職の裁量
市教委主事に間に入れてもらう。教えてもらう。



Point ～対話を大切に～

子どもを真ん中に、行政、学校、センターの“都合”を突き合わせ、
折り合いが見つくところをさがす。

14年間意識し実践してきたこと

3. 感謝

立場を超えて、子どもたちの成長を共に喜べてうれしい。



4. 考察と今後の課題

★「子どもの日本語教育」に対する認識の変化

14年前

センター 日本語支援は日本語だけ教えればいい。
学校 日本語支援で何をしているかよくわからない。
市教委 委託したからおまかせします。



三者の意識の変化
三者の連携体制が認識されつつある
センターの日本語教育支援員が常駐ではないからこそ三者の連携がキー



現在

子どもの生活や教科の学習は日本語支援と切り離せない。

学校・市教委・センターが都度協議し、個に応じた状況に対応できる体制へ

4. 考察と今後の課題

★ 今後の課題

こうした体制は、長野県内では松本市のみ。

居住地域によって支援が異なることは、子どもの学ぶ権利を著しく侵害している。

仕組み・体制の構築を発信していく。